

ぼむ・ぼむ通信

No. 54

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



～会員生協の活動から～

ぼむ・ぼむ通信 54号

目次

◇東日本大震災支援 日本ユニセフ協会支援報告 ~地震から9ヶ月 支援活動続報~	1
◇知っとこ。ユニセフ 公平性①～ミレニアム開発目標達成をめざして～	5
◇世界の子どもたちは今 ソマリア	7
◇生協のユニセフ支援活動	9
*富山県生協連 *なのはな生協 *ちばコープ	
◇トピック	13
*ユニセフ最新の数値を発表 5歳未満児死亡数 年間760万人に減少！	
*C O · O P コアノンスマイルスクール第1期募金額報告	
*第33回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金	

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- ・すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料として活用いただけます。
- ・ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- ・店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。



東日本大震災

日本ユニセフ協会支援報告～地震から9ヶ月 支援活動続報～



©UNICEF Japan/2011/Sato

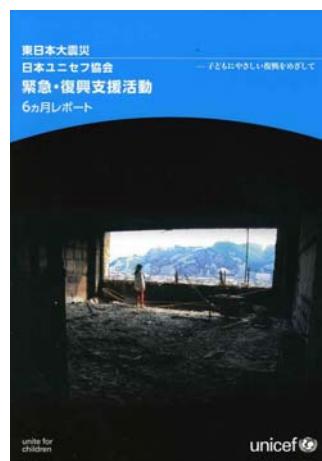
2011年6月4日 ユニセフのアンソニー・レーク事務局長は、黒柳徹子ユニセフ親善大使、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使と共に宮城県沿岸部の被災地を訪問しました。



6カ月レポートが発行されました



地震発生から2日後の3月13日、日本ユニセフ協会はユニセフ本部の全面的なバックアップを受け、ユニセフファミリーとしておよそ50年ぶりとなる日本国内での支援活動を開始しました。未曾有の大災害によってあまりにも多くのものが失われた被災地において、子どもたちの生活と、心身の健康そして発達を支えるために展開されてきた緊急・復興支援活動。その6カ月間を振り返る報告書が出来上がりました。被災した子どもたちはどのような状況に置かれていたのか、子どもたちのニーズに応えるべくおこなわれた活動内容、それを支えてくださった関係者や支援者の声、そして6カ月収支報告が収められています。



【PDF版はこちらから】 http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/pdf/uf_6_report_j_all.pdf

■ 「ユニセフ祈りのツリー」プロジェクト ■

「ユニセフ祈りのツリー」プロジェクトは、被災後はじめて迎えるクリスマスというタイミングに、日本中が被災地に改めて想いを馳せ、被災地の子どもたちに、笑顔をプレゼントすることを目指し、2011年7月、祈りのツリープロジェクトと日本ユニセフ協会により発足しました。これまでに、プロのデザイナーや美大生2000人が、被災地への想いを込めたオーナメントをデザイン。岩手、宮城、福島の子どもたちにツリーとともに届けられます。同時に、約15ヶ所の保育園・幼稚園では、ボランティアのデザイナー・美大生が子どもたちとオーナメントづくりのクリスマス会をおこないます。さらに都内では、祈りのオーナメントに彩られたビッグツリーの展示やオーナメント募金を通じて、被災地の子どもたちへの想いを広げていきます。

震災後、多くの保育園や幼稚園では、子どもたちが毎年楽しみにしている年中行事がままならない状況が続いている。本プロジェクトを通じて、被災地の子どもたちにとってかけがえのない今年のクリスマスに、笑顔と楽しい時間を届けます。<http://inoritree.com>)



※「祈りのビッグツリー」は、都内では銀座・有楽町の5会場(銀座三越、松屋銀座、資生堂ザ・ギンザ、ルミネ有楽町、有楽町ロフト)、および仙台・気仙沼の3会場(仙台ロフト、仙台三越、気仙沼復興屋台村)の協力で各会場に2011年12月25日まで展示される予定です。



■ 親子が参加する公園づくりワークショップ ■

日本ユニセフ協会は、復旧・復興のプロセスに子どもたちも参加できる機会をつくり、また、子どもたちが楽しく安心して生活できる街が復興されるよう、岩手県大槌町、宮城県女川町、福島県相馬市の取り組みを支援しています。

岩手県大槌町では、子どもたちが安心して安全に遊べる場所が非常に限られている現状に対し、同町の地域整備課が中心となり、仮設住宅団地のサポートセンター敷地内の公園（遊び場）づくりを進めています。日本ユニセフ協会は、この取り組みを応援するため、すべり台などの遊具を提供し、地域整備課と協力し、住民の意見を反映した公園づくりのプロセス作りを支援しています。この一環として、10月23日に、町内の親子にご参加いただきワークショップを開催しました。



©日本ユニセフ協会/2011

ワークショップでのぬりえの様子



©日本ユニセフ協会/2011

みんなで投票中

子どもたちを中心に、5色のクレヨンをつかってどんな色の遊具にしたいか、ぬり絵をしました。みんな楽しく、思い思いの色をぬり、完成したぬり絵に全員で投票しました。選ばれたのは明るく元気な色づかいの絵。また、保護者のみなさんにはすべり台や階段などの形を選んでいただきました。こうして選ばれた色とパーツが実際の遊具に反映されます。

今回は大槌地区と小鎌地区2ヵ所の仮設住宅団地のサポートセンター敷地内に遊具が設置されます（来年3月頃に完成予定）。この遊具は新しいまちづくりの中でつくられる公園にも移設され、参加した親子の想いとともにのこっていくことになります。日本ユニセフ協会では引き続き子どもにやさしい街づくりに関する取り組みを支援していきます。



■ 子どもへの暴力防止 ■



©日本ユニセフ協会/2011

岩手県山田町で開催された CAP ワークショップ

日本ユニセフ協会では、東日本大震災被災地における「子どもの保護」事業の一環として J-CAPTA (Japan CAP Training & Action) と連携し、宮城県及び岩手県において CAP プログラムを実践する“暴力防止専門家”を養成する講座を開催しました。

CAP とは、Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)の略で、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分の心と身体を守るために教育プログラムです。養成講座では、被災地の子どもたちに関わるすべてのおとな(保護者、教師、保育士、相談員、カウンセラー、子ども会のリーダーなど)を対象に、子どもの虐待問題の基礎知識から実践的なワークショップのトレーニングまで、40 時間にわたって行われ、被災地で CAP プログラムを通じて子どもたちへの暴力防止と子どもが安心して暮らせる地域づくりを普及・実践していく人材を養成します。



■ インフルエンザ予防接種の費用を助成 ■

日本ユニセフ協会は、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島各県沿岸部の 29 市町村の子どもたちを対象としたインフルエンザ予防接種の支援を決定。10 月以降、各地で実施されるインフルエンザ予防接種活動において、生後 6 ヶ月から中学生までの子ども約 160,000 人を対象に、市町の保健当局等を通じ、接種1回あたり 2,000 円を助成しています※。

※※助成手続きの詳細は自治体によって異なるが、原則、インフルエンザ予防接種を申し込めば、日本ユニセフ協会からの助成分を差し引いた金額が受診者に請求される予定。



©日本ユニセフ協会/2011

6 月 2 日、陸前高田市で行われた予防接種活動の様子

(日本ユニセフ協会 HP 「東日本大震災緊急支援」最新情報より抜粋・編集 <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011.htm>)

◆ 東日本大震災緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では東日本大震災緊急募金を受け付けておりますのであたたかいご支援よろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座:00160-2-372895

口座名義:公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「東日本大震災」と明記願います。

*手数料はご負担くださいようお願い申し上げます。



知りたい？ 知っとこ。ユニセフ

公平性 ①
～ミレニアム開発目標達成をめざして～

2015年までに達成をめざしている 8つの項目 ミレニアム開発目標(MDGs)をご存知ですか？
ユニセフはその内容からも 各国政府と共に達成をめざしている重要な国連機関の1つですが、特に
2010年新戦略として「公平性に重点を置いたアプローチ」の大切さを提唱しています。
今回からの「知っとこ。ユニセフ」は このミレニアム開発目標をご理解いただき、またなんとも難しい課題である「公平性」について ユニセフの仕事をお伝えしつつ探っていきたいと思います。

Q ミレニアム開発目標 (MDGs) とは どんな目標ですか？

A 2000年9月ニューヨークの国連本部で開催された国連ミレニアム・サミットに参加した147の国家元首を含む189の国連加盟国代表が、21世紀の国際社会の目標として、より安全で豊かな世界づくりへの協力を約束する「国連ミレニアム宣言」を採択しました。
この宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットでの開発目標をまとめたものが
ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) です。

ミレニアム開発目標 8項目

(1990年を基準とした2015年までの具体的目標とターゲット一例)

極度の貧困と飢餓の撲滅 1日1ドル未満で生活する人口の割合を半減させる。 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる	妊産婦の健康の改善 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する
普遍的初等教育の達成 すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする	HIV/AIDS、マラリアその他の疾病的蔓延の防止 疾病の蔓延を防止し減少させる
ジェンダー平等推進と女性地位向上 すべての初等レベルにおける男女格差を解消する	環境の持続可能性の確保 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる
乳幼児死亡率の削減 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する	開発のためのグローバル・パートナーシップの推進 民間部門と協力し情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

Q ユニセフの新戦略「公平性に重点をおいたアプローチ」って何 ？

A ミレニアム開発目標の進捗状況確認した 2010 年。

ユニセフは 2 つの報告書を発行しました。

☆ 『目標達成のための格差の是正 (Narrowing the Gaps to Meet the Goals)』

☆ 『子どもたちのための前進：公平性のある MDGs の達成をめざして (Progress for Children: Achieving the MDGs with Equity)』です。

この報告書では、最も貧しく最も困難な条件に置かれている子どもたちへの支援を行えば、より多くの命を救うことができるようになりました。

そしてこの支援方法こそが 2015 年までのミレニアム開発目標達成への近道である。と 提唱したのが「**公平性に重点をおいたアプローチ**」です。

ユニセフ アンソニー・レーク事務局長の言葉

「調査結果は、最も貧しく最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置くことは、費用効率が悪いとする従来の考え方には、異を唱えるものです。」

「公平性に重点を置いた戦略は、『原理としての正しさ』という道徳的な面のみならず、『現実面での正しさ』というさらに魅力的な成果をもたらすものです」

また、世界的に有名なサセックス大学開発研究所のローレンス・ハダット所長は、「ユニセフの調査結果により、公平性に重点を置くことは有益であると同時に、効果的なものであると納得させられました」、と語っています。



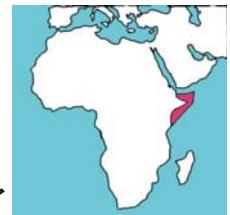
(c)UNICEF/NYHQ2011-1172/Holt

・・では具体的にどのようなアプローチでどのような調査結果が得られたのか。

次回につづきます。公平性・格差の是正 の理解をめざして。



世界の子どもたちは今



ソマリア

今年は災害の多い年だったね。東日本大震災もあったし、世界中あちらこちらで洪水や干ばつ地震が起きて、どこも大変な状況になっているんだね。

そうだね。中でも国連が『飢餓(きが)状態』と宣言した、深刻な状態のソマリアへ行ってみるよ。

ソマリアと、その周辺域は『アフリカの角(つの)』地域と呼ばれ、「世界で一番子どもの命が短い国」と言われているんだ。

内戦

20年以上も続く内戦で、街も村もメチャクチャ。住む家を追われて、次々に避難を続けて来たの。

かん
干ばつ

過去60年で最悪の干ばつ。植物は育たず、家畜は死んでしまって、食べるものが無くなっている。

避難キャンプは…

水や食料を求めて、次々と人々が避難して来て、すし詰め状態。ちゃんと寝る場所があるのかしら？トイレだって足りないし…

衛生設備が十分ではなく、これだけ過密状態だと、コレラや下痢症などの感染症が一気に広がる危険性があるんじゃない。特に栄養状態が良くない子どもたちには生死に関わる問題なんだ。

今回の「干ばつ・飢餓」でソマリアでは毎日数百人の子どもたちが命を落としているんだよ。

大雨・洪水

そこへ今年の10月待望の雨！恵みの雨…となるはずが…

カラカラに乾いた大地に、一気に大雨が降って、今度は大洪水！キャンプ地も洪水に押し流され、泥沼の中に孤立。前よりももっとひどい状況になったんだ。

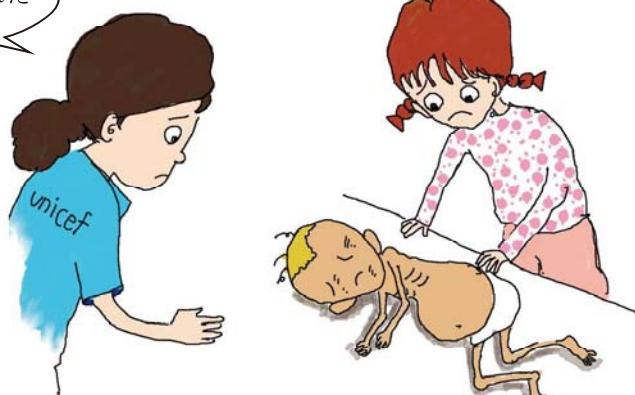
内戦で下水管も壊されているので、汚染水が流れ出し、水を媒介とする病気、感染症、下痢症、などの心配が増えた

栄養不良だと、髪の毛が黄色に変色したり、お腹に水がたまつてふくれたり。皮膚がただれたりするのよ。

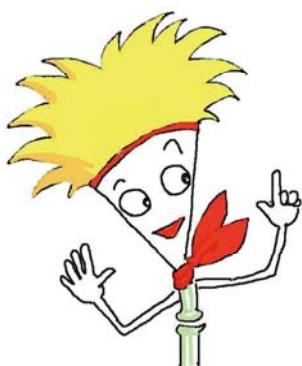
免疫力が弱っているから病気にかかりやすくなるの。
水を媒介とする感染症や、雨による低体温症。
風邪や肺炎で命を落とす子どもたちが多いのよ。

長い距離を歩き続けて来て、やっとたどり着いたのに‥

こんな緊急事態においては、栄養が付きそうな『粉ミルク』も、6ヶ月未満の子どもに与えると、かえって死亡率をあげる事になるらしいんだ。
ミルクを溶かす『水』が安全じゃあ無いからね。



問題は山積みだけれど、大丈夫！
ユニセフがずっと支援し続けているから！



水・食糧



毛布・衣類



薬・ワクチン

怖い思いや悲しい思いをいっぱいしてきた、子どもたちが抱える問題を見つけるために、最初に面談を実施しています。
その後、難民登録します。

キャンプに着いた



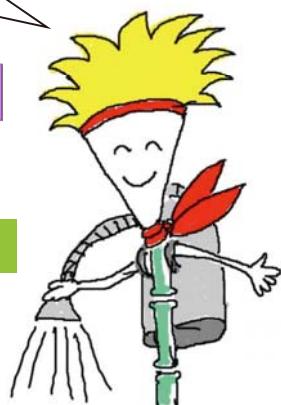
子どもにやさしい空間



ただ一緒に遊ぶだけで、子どもたちは、ストレスを軽減することができます。

病気を寄せ付けないぞ！
感染症予防だ！

水道の塩素消毒



殺虫剤の噴霧



衛生設備の充実



手洗い

手を洗おうね！
バイ菌バイ
バイ…



武装勢力と話し合い‥

子どもたちの為に、ここを通らせて下さい！
攻撃しないでね！

命がけで‥

一人でも多くの子どもたちの命を救うために、ユニセフと一緒に、これからも支援していこうね！

生協のユニセフ支援活動

Partnership



～ユニセフと連携した取り組み～



富山県生協 「けんせいきょう祭り 2011」にてユニセフキッズも協力

富山県生協は、2011年10月15日(土)16日(日)富山産業展示館で「けんせいきょう祭り 2011」を開催し、2日間で33,000名と多くの来場がありました。



ユニセフ俱楽部で作成したオリジナル紙しばい・かるたの紹介



日頃の感謝を込めて、地元生産者の新鮮野菜の直売やコープ商品のお買得市、また今年は東日本大震災支援の取組みとして、東北商品の販売や、チャリティーオークションも行いました。

さらに、リユース食器の使用や、使用済み天ぷら油の回収、マイバック持参、ゴミ分別等、来場者とともに、環境に配慮して取り組みました。



会場ではユニセフコーナーを設け、日頃のユニセフ活動も紹介しました。

今年7月に開催した「ユニセフのつどい」で、ユニセフについて学んだ子どもたちも『ユニセフキッズスタッフ』として、ユニセフ俱楽部スタッフといっしょに協力してくれました
ユニセフを理解してくれる子どもたちは、自分の言葉で、ユニセフ募金を呼びかけてくれました。

ユニセフキッズ



ユニセフ俱楽部スタッフと一緒に募金協力を呼びかけるユニセフキッズの子どもたち



なのはな生協 外貨預金



外国コインや紙幣は合わせて41.2kg

なのはな生協では、今年も組合員の皆さんに外貨募金のご協力を呼びかけました。

海外旅行などで残った、使う予定のない外国コインや紙幣が、世界の子どもたちの支援になるということで、毎年夏に、募金のお願いをしています。その外貨のほとんどは、配達の職員経由で生協に届き、ユニセフ委員が、荷造りとユニセフへの発送を行います。

今年も多くの方がご協力くださり、コイン・紙幣合わせて、重さは41.2キロにもなりました。

組合員の皆さんには、外貨募金だけでなく、お年玉募金や書き損じハガキ収集など様々な機会に、ご協力をいただいています。

～なのはな生協まつり～

また10月8日には、千葉ポートパークで、なのはな生協まつりが行われ、私たちユニセフ委員会も参加しました。

当日は、水がめ・地雷レプリカ・スクールインアバッグの展示コーナー、夏のイベントでも、好評だった、委員手作りのユニセフすごろくのコーナーを設けました。合わせて、ポストカードやクリスマスカードなどの、ユニセフグッズの販売も行いました。

すごろくでは、遊びながらユニセフの活動について学びますが、止まったマスに書いてある文章を説明するのに、地雷レプリカなどの展示品が大変役に立ちました。水がめには実際に水を入れて展示したので、その重さと運ぶ大変さを実感していただくことができました。

そのほかにも、東日本大震災の被災地へ、ユニセフから日本国内では50



年ぶりに支援があったこともお伝えできました。

ユニセフ委員手作りのユニセフすごろくコーナー

ユニセフ委員会では、組合員の方にユニセフについて知っていただく機会を、今後も大切にして、活動していきたいと思っています。



ちばコープ 「2011年度 ユニセフリーダー研修・交流会」を開催

ちばコープでは、2011年9月26日(月) ちばコープ桜木事務所 会議室にて「2011年度 ユニセフリーダー研修・交流会」を開催いたしました。



千葉県ユニセフ協会事務局長
福本さんによるユニセフ学習

今回の研修・交流会は「① ユニセフ活動について理解を深める」「② エリアにおけるユニセフ活動の推進リーダーを育成する」ことを目的としました。

前半のユニセフ学習では、千葉県ユニセフ協会からの東日本大震災における支援活動の報告をメインに、ユニセフの成り立ちや、活動理念などを学びました。

後半は、ちばコープのユニセフ活動の歴史について西山理事が説明し、その後は3グループに分かれ「ワークショップ世界の援助」を体験、その感想も踏まえ「11月コープ会」での進め方を交流しました。

た。最後は「ハンド・イン・ハンド募金」のスケジュールや、ユニセフグッズの取り扱いなどを確認しました。

参加者からは「国際協力の大切さを、コープ会メンバーにも身近なものとして感じてもらいたい」「ユニセフのことや、生協の取り組みを知ってもらいたい」などの感想が寄せられ、全体として目的を達成することができました。

今年は日本生協連による「ユニセフリーダー研修・交流会」が中止になったため、ちばコープ独自の研修・交流会にしましたが、千葉県ユニセフ協会の協力のもと、よりちばコープの取り組みに即した内容で、実施することができました。加えて、サポーターが、千葉県ユニセフ協会の活動や、スタッフの方を知る機会ともなり、有意義な場を作ることができました。



「ハンド・イン・ハンド募金」に
向けたユニセフグッズの紹介

～ユニセフリーダー研修・交流会に参加して～

今回この研修・交流会に参加して、ユニセフについて多くのことを学びました。

支援を受けている世界中の子どもたちの状況、ユニセフの具体的な支援の仕方、そして、3月11日の東日本大震災発生からわずか2日後に、ユニセフが日本への支援を決定したことや、現地のスタッフの活動、交流、絆などです。

三河屋プロジェクト

国連に加盟する192ヶ国のうち157の国と地域から、日本への支援の申し出がありました(外務

省調べ）。国内外から調達したユニセフの緊急支援物資は、生協の倉庫・トラックによる物流面での協力によって、被災各地の避難所などへ届けられたそうです。

被害の状況や時間の経過とともに、必要となる物資や設備などは、どんどん変わっていくため、「三河屋プロジェクト」と名づけられた御用聞き方式で、今何が必要か、を細かく把握しながら、支援物資が届けられていったそうです。また、これまで海外で支援活動を行ってきた日本人スタッフと現地スタッフとの絆や交流により、単に組織間での支援に留まらず、人と人の思いがあふれる支援がなされたとのことです。

もし、ユニセフ支援がなかったら

日々の生活や教育、子どもたちの心のケアなど、もしも、ユニセフを通じた世界中からの支援がなかったとしたら、被災地の子どもたちはどうなっていたでしょう？

第二次大戦後の支援から50年ぶりにユニセフからの支援を受けた日本ですが、改めて支援することの大切さを、気づかせてもらったように思います。

これからもユニセフ活動を応援していくと、改めて思いました。

ちばコープ 南流山店舗サポーター 中嶋保子

参加者の感想【学んだこと、気づいたこと】



ワークショップ「世界の援助」実施

► 必要とされるときに手を差し伸べること。
今まで全く考えていたかったので、これからはそうしていきたい。

► 日本が支援した多くの国から今回の大震災に対して支援の申し出があったこと、ニュースで知っていたつもりでしたが、想像以上のものでした。

► ユニセフの支援のやり方について、初めて学んだ気がします。自分たちが一から全部ではなく、現地の団体をサポートするという姿勢は、サポーターの視点から見ても大切なことだと思います。

► 今、日本がこれほどたくさんの国から支援を受けていることに驚きました。そしてそれらの国の中には今支援を受けている国や乳児の死亡率が高い国もあり、その気持ちを考えると涙が出ました。

► 震災前は、ずっと日本はユニセフに対して支援する立場だけだと思っていたのですが、世界の3/4の国がこんなにも支援してくれていたなんて、びっくりしました。事例にあった「支援される側に立って初めて支援の温かさに気づかれた」というメッセージにジーンときました。



説明はユニセフ担当職員打越さん



ユニセフ最新の数値を発表 5歳未満児死亡数 年間760万人に減少！

2011年9月15日、ユニセフは、世界保健機関（WHO）とともに、世界の5歳未満児死亡率の最新の推計値を発表しました。この推計によりますと、1990年時点では年間1,200万人以上だった5歳未満児の死亡数は、2010年には年間760万人に、減少しました。1990年時点と比較すると、一日あたり1万2,000人の幼い命が守られたことになります。

今号では、今回発表された子どもの死亡に関する報告の中から、死亡率が高いサハラ以南のアフリカと南アジアの最新の数値と、厳しい状況下にあっても死亡率削減に改善が見られた国の取り組みを簡単に紹介します。



(c)UNICEF/NYHQ2011-0709/Olivier Asselin

～誕生日が迎えられない子どもたち～

5歳未満児の死亡は、サハラ以南のアフリカと南アジアに集中しています。1990年時点では、死亡率の69パーセントがこの2地域で占められていましたが、2010年、この割合は82パーセントにまで上昇しています。

サハラ以南のアフリカでは、1990年から2000年の間に年間1.2パーセントのペースで死亡数が削減されていましたが、2000年から2010年までの間には、そのペースが2倍、年間2.4パーセントのペースで削減されていることが分かりました。しかし、いまだに子どもの死亡率が最も高く、8人に1人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。これは、先進工業国との平均（143人に1人）と比べて17倍以上です。死亡率が2番目に高い南アジアでは、15人に1人が5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。

新生児と乳児は最も命を落とす危険が高く、世界の5歳未満児死亡の40%以上が、生後1ヶ月以内に起き、70%以上は1歳の誕生日前に起きています。

2010年、世界の5歳未満児の死亡の約半数を、わずか5カ国（インド、ナイジェリア、コンゴ

民主共和国、パキスタン、中国)が占めています。

～ 死亡率削減で最も改善が見られた国～

2010年、5歳未満児の死亡率が最も削減された国は、ニジェール、マラウイ、リベリア、シエラレオネ、東ティモールの5カ国です。この国々の中には、子どもたちにとって、最も厳しい状況の国々が含まれています。

例えばニジェールの5歳未満児死亡率は、1990年には出生1,000人あたり311人でした。保健施設まで遠く、通うのが困難なことが多いこの国では、全国数千箇所に新たに設置した保健所に、研修を受けた地域保健員を配置し、効果的な支援を実施する戦略が実行されました。

WHOのマーガレット・チャン事務局長と、ユニセフのトニー・レーク事務局長は、政府によるコミットメントと、こうした不可欠なサービスへのアクセスを制限する地域の要因を克服する戦略の実行が成功への重要な要素であると合意しました。

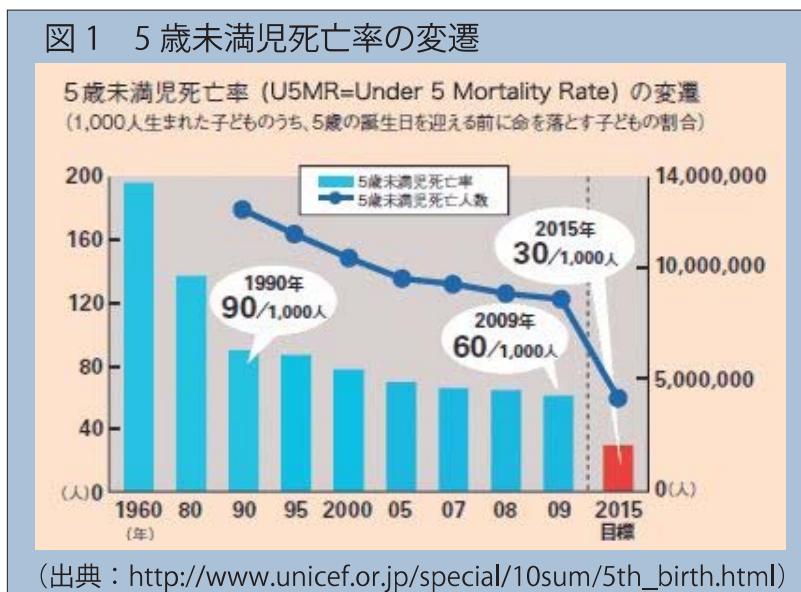
～ すべての子どもに5歳の誕生日を～

1990年時点で出生1,000人あたり88人であった5歳未満児死亡率は、2010年には出生1,000人あたり57人となり、1990年と比較して約3分の1以上削減されたことになります。

しかし、2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2削減するという、ミレニアム開発目標(MDGs)4を達成するにはまだ十分ではありません。(図1参照)

* この最新の数値は、ユニセフとWHO、世界銀行、国連人口局などが主導する「子どもの死亡数推計作業部会(IGME)」が、2011年の報告書、『子どもの死亡率の推移』で発表したものです。

(日本ユニセフ協会HP 「協会からのお知らせ2011年」より抜粋・編集
http://www.unicef.or.jp/osirase/back2011/1109_01.htm)



5歳の誕生日を迎えることなく亡くなるその原因の多くは、安全な水やワクチンがあり、適切なケアを受けられていれば防ぐことができるものです。

2010年9月に発表された数値から、これまででは、命を落とす子どもは、3秒にひとりの割合でしたが、4秒にひとりになりました。多くの幼い命がまた守られた証です。



「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」第1期募金報告



第1期募金額

(2010年11月1日～2011年10月31日)

9,607,697円

(CO・OPコアノンロールを9,607,697パック
ご利用いただきました)

第1期の募金額は、約960万7千円（約12万米ドル※）となりました。（※1米ドル=80円として計算）

皆さまから寄せられた募金は、アンゴラにおいてユニセフが進める「子どもにやさしい学校づくり」に使われます。

皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。



第2期がスタートしました！

CO・OPコアノンロール（トイレットペーパー）を1パックお買い上げいただく度に、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」のために1円が募金されます。

期間：2011年11月1日～2012年10月31日

アンゴラに届くまで



引き続き、皆さまの暖かいご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

プロジェクトの詳細は、日本生協連ユニセフサイトをご覧ください

【URL】<http://jccu.coop/unicef/smileschool/>



第33回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金 今年のテーマ「SOS！栄養不良に苦しむ小さな命を守ろう！」

世界では5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもが年間760万人もいます。この死亡原因の1/3以上に栄養不良が深く関係しています。栄養不良は、食糧不足によって飢餓の状態に陥るケースから、抵抗力が奪われて感染症などのために命を失ったり、発達障害を起したりと、その影響範囲は広いものです。栄養不良は短期的にも長期的にも子どもの生命と未来を脅かす直接的な原因となります。

第33回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金は、こうした栄養不良に苦しむ小さな命を守り、公正な世界を実現するため、みんなの“手と手をつなぐ”ことを目指して展開していきます。

© UNICEF/NYHQ2006-0562/Shehzad Noorani



ユニセフ ハンド・イン・ハンドとは

ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金の始まりは1979年の国際児童年にさかのぼります。この年は、日本国内で開発途上国の子どもたちへの関心が高まり、ユニセフ支援の輪が大きく広がりました。世界の子どもたちへの共感を高め、協力を推進していきたいという願いで始まったのが、全国一斉の「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」です。

“ハンド・イン・ハンド”とは、世界の子どもたちのしあわせと明るい未来を実現させるため、文字通り“手に手を取って”一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。毎年11月と12月がハンド・イン・ハンド実施期間となっており、これまでにのべ60万人以上のボランティアの方々に学校や職場、家庭、そして街頭でこの活動に参加していただきました。昨年度は1,517もの団体・個人から合計53,553,762円のユニセフ募金が寄せられました。今年も、多くの皆様にユニセフ活動にご賛同いただき、ハンド・イン・ハンドに参加していただけることに感謝いたします。（※今年の参加申込は2012年12月9日をもちまして締め切らせていただきました。）また、生協店舗や街頭でハンド・イン・ハンドの募金箱を見かけたら是非協力をお願い致します。

【詳細はこちらから】 <http://www.unicef.or.jp/cooperate/handinhand/>

ぼむぼむ広場

編集後記

◆53号から参加させていただいている。昨年のユニセフリーダー研修会のときにユニセフのあり方に心を打たれました。そしてそのとき、ぼむぼむ通信の方にもお会いして、こんな方々とともにユニセフに関わるたらよいなと思っていました。参加して感じたことは、長年ユニセフに関わっておいでの方は、思った通り、視野が広くて心もやさしいな、ということです。これからしっかり勉強して、早くみなさまに追いついて行きたいと思っています。全世界の子どもたちが笑顔で平和に暮らせますように。（K）

◆この度、産休のためお休みをいただくことになりました。約2年間、ぼむぼむ通信の編集に関わることができ、ユニセフや世界の子どもたち、生協の支援活動などを知ることができたことは、自分にとって大変大きな経験でした。毎回の編集ミーティングではいろいろなお話もできとても楽しみでした。離れるのが寂しいです。本当にありがとうございました！（朝）

ユニセフ * コープネットワーク
ぼむ・ぼむ通信

No. 54 2011年12月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集／相澤・尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・小池・石尾・朝倉・中村

イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コープフザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○ぼむぼむ通信第54号をお届けします。

前号に続いて東日本大震災へのユニセフの支援活動をご紹介します。また、厳しい状況が続いているソマリアの現状や、ユニセフの「公平性に重点を置いたアプローチ」について掲載しています。世界の5歳未満児死亡数が減少したというニュースも取り上げました。

○全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

○次号は、2012年3月15日発行予定です。